



第67期 事業報告書

平成16年11月1日から平成17年10月31日まで

 **ゼネラル**株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清栄のことと心より喜び申し上げます。
さて、当社グループの第67期(平成16年11月1日から平成17年10月31日まで)の営業の概況をご報告申し上げます。

当社グループの営業の経過および成果 営業の全般的状況

当期におけるわが国経済は、企業収益が改善し、設備投資が増加するとともに、企業部門の明るさが消費者マインドを支えたことにより個人消費も緩やかに回復を続けました。また雇用情勢は、失業率の高止まりなど厳しさが残るものの明るい兆しが出てまいりました。一方、海外におきましては、米国のハリケーンなど自然災害の影響や原油価格の動向など先行きの不安があるものの、米国および中国経済をはじめ世界経済は順調に拡大を続ける状況で推移いたしました。

このような経営環境のもと、当社は更なる発展と企業価値の向上を目指し、平成17年3月に会社分割を行い、中核事業であったインクリボンなどのOA関連商品に係る製造販売に関する事業をゼネラルテクノロジー株式会社に、リユースナーカートリッジなどのOA関連商品の販売に関する事業をゼネラルサプライ株式会社にそれぞれ承継いたしました。

当期の売上高は321億1千6百万円となり、旧本社工場跡地再開発事業の分譲マンション販売(約170億円)を計上した前期に比し27.7%の減少となりました。損益面では、経常利益が6億7百万円

(前期比86.0%減)当期純利益が4億3千8百万円(前期比81.1%減)となりました。これは分譲マンション販売による利益がなくなったほか、OA関連事業における新製品(フォトプリンター用昇華型熱転写リボンおよび受像紙)の立上げに係る開発費用の増加が主な要因です。

営業の部門別状況

【OA関連事業】

当社グループの中核事業であるOA関連事業におきましては、産業印刷市場向けインクジェットカートリッジ(IQ2392)を平成17年2月、全世界に向け発売し順調に売上を伸ばしました。同製品はサーマルインクジェット用としては画期的な自社開発の溶剤系顔料インクを採用し、光沢紙への高速印刷を可能にしております。

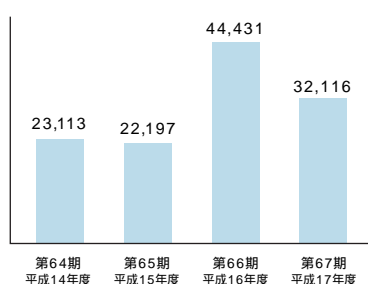
インクリボン関連では、海外向けFAX用熱転写リボンが減少いたしました。激しい価格競争の中、積極的な販売活動を展開した結果、POS用サーマルリボンなどが増加いたしました。

コスト面では、今後の主力製品と目論む新製品(フォトプリンター用昇華型熱転写リボンおよび受像紙)の立上げに係る開発費用や原油価格高騰により製造経費および販管費が増加いたしました。これらの結果、売上高は123億5千7百万円となり、営業利益は2億8千8百万円となりました。

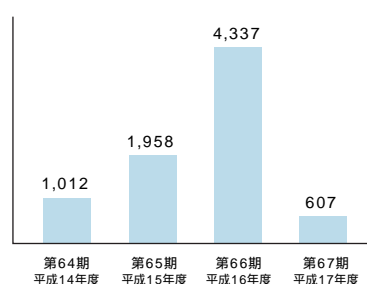
また、従来の製法とは異なるICタグ用などのフィルムアンテナ製造を可能とする導電性熱転写リボンを開発、米国学会で発表し大きな反響を得ました。

連結売上高と利益の推移(単位:百万円、未満切捨)

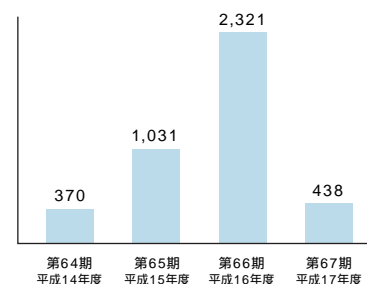
売上高



経常利益



当期純利益



1 第65期(平成15年10月期)は、決算期変更により10ヶ月間の決算となっております。

2 第66期(平成16年度)には、旧本社工場跡地再開発事業の分譲マンションの売上・利益が計上されております。

【トナー関連事業】

当社グループの中核事業であるトナー関連事業におきましては、激しい価格競争の中、リユーストナーカートリッジの普及率が年々上昇してまいりました。平成16年10月には滋賀工場への生産一極化が完了し生産性が向上するとともに品質が安定し、その優位性を市場に訴求することにより、有利に販売活動を進めてまいりました。その結果、売上高は85億5千6百万円、営業利益は3億6千6百万円となりました。

【文具関連事業】

文具関連事業におきましては、当期から、当社グループ入りしたサンノート株式会社の業績数値を加え売上高は52億1千6百万円、営業利益は1億8千6百万円となりました。

【不動産事業】

不動産事業では、不動産の賃貸収入等により売上高は14億3千7百万円、営業利益は2億4千9百万円となりました。

【その他事業】

その他事業には、自動車用ファスナーの販売事業、事務用裁断機の製造販売事業、投資顧問事業などを含んでおり売上高は45億4千7百万円、営業利益は1億8千万円となりました。

なお、投資顧問事業を担っておりますプレステージ・アセット・マネジメント株式会社は、平成17年9月26日付けにて証券業登録申請を受理され、プレステージ・アセット・マネジメント証券株式会社に社名変更いたしました。

当社グループの対処すべき課題

当社グループは、「価値創造」の理念のもと、顧客起点の視点に立ち、新製品の開発・育成並びにそのための積極的投資を行ってまいります。生産から販売にいたるグループ・グローバル体制を強化、さらなる品質向上、原価低減をはかり競争力、収益力を高めていく所存です。

OA関連事業におきましては、米国ヒューレット・パッカド社のサーマルインクジェット技術と独自開発したインクとを組み合わせ、平成17年に全世界に向け発売した産業印刷用インクジェットカートリッジや、フォトプリンター用昇華型熱転写リボンおよび受像紙の拡販に努め、早期に事業の柱となるよう育成してまいります。

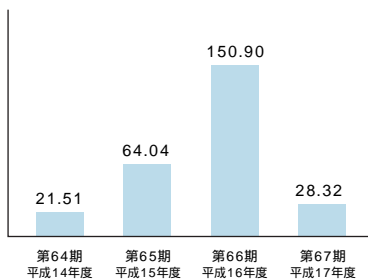
トナー関連事業におきましては、カラープリンターの普及が進んでおり、今後カラートナーカートリッジのリサイクルに注力していく所存です。

当社は持株会社といたしまして、グループ全体の戦略立案や経営資源の最適化をはかり、ゼネラルグループの企業価値向上を目指してまいります。



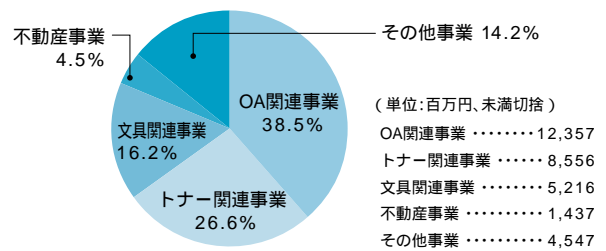
平成18年1月
取締役社長 櫻井紘哉

1株当たり当期純利益(単位:円) 3



3 1株当たり当期純利益は、期中平均の発行済株式総数から自己株式数を除いて算出しております。また、第65期(平成15年10月期)より「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)および「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針(企業会計基準適用指針第4号)」を適用しております。

セグメント別の売上高



トピックス：主な連結子会社の紹介

ゼネラルテクノロジー株式会社

滋賀第三工場の竣工および稼働

ゼネラルテクノロジー株式会社では、今後の主力製品と目論むフォトプリンター用昇華型熱転写リボンおよび受像紙を製造する滋賀第三工場を平成17年8月に新設。平成18年3月より本格的に稼働いたします。

滋賀第三工場建設の目的

現在、滋賀第一・第二工場では主力製品の普通紙ファックスやバーコード印刷用などの熱転写リボン、感熱孔版原紙、日付捺印用転写箔などコーティング技術をベースとした製品をフル稼働で生産しております。

一方、デジタルカメラおよび高解像度のカメラ付き携帯電話の普及に伴い、業務用ならびに家庭内でフォトプリンターを使用し、写真を出力するユーザーの増加が予想されます。こうした市場の動向をふまえ、当社ではフォトプリンター用昇華型熱転写リボンの需要増を見込み、生産力増強のため滋賀第三工場を新設いたしました。

滋賀第三工場の概要

名 称	滋賀第三工場
所 在 地	滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘6番地 近江水口第二テクノパーク
敷地面積	18,402.93㎡
延床面積	7,994.58㎡
構 造	鉄骨造2階建
設備投資額	約35億円



滋賀第三工場（外観）



多色印刷機

滋賀第三工場の特長

滋賀第三工場は滋賀第一・第二工場に近接した工業団地（近江水口第二テクノパーク）に建設いたしました。敷地面積は約18千㎡。工場の大部分が清潔で近代的なクリーンルームになっており、主要設備の多色印刷機および受像紙用コーターをクリーンエリアに設置、フォトプリンター用昇華型熱転写リボン製造の大敵であるホコリを徹底的に排除します。クリーンルームの他にも空調設備を備えた自動倉庫や、インク調成室など、高品質な製品を提供するための施設が充実しています。

また、当工場では排気ガスの削減を目標に掲げ、排ガス脱臭装置も設置。環境にも配慮した、よりよい工場の確立を目指します。

フォトプリンター用熱転写リボンとは？

昇華型熱転写方式を用いた、フォトプリンター用のインクリボンです。昇華型熱転写方式とはA6やハガキサイズ用のプリンタの、多くに採用されており、従来はプロユースで使われていた方式です。高熱を与えることでインクを昇華させ、気化したインクが紙面に定着することで印刷されます。気化したインクで印刷されるためドットが目立たず、美しい表現が可能です。



昇華型熱転写リボンで印刷した写真サンプル

ゼネラルテクノロジー株式会社

新製品 産業用インクジェットバルクインクシステム
IQ7467 / IQ7468

ゼネラルテクノロジー株式会社は大量印刷に対応したバルクインクシステムIQ7467(プリントヘッドキット)およびIQ7468(350ml インクタンク)を平成17年9月9日に発表し、発売を開始いたしました。

開発の背景

ゼネラルテクノロジー株式会社は、米国HP(ヒューレット・パカード)社のTIJ(サーマルインクジェット)技術を採用したGENERAL IQ2392を平成17年2月に発売しました。IQ2392は、光沢紙等への高解像度・高速印刷が可能で、市場の拡大および新規市場の創出に大きく貢献しております。

この市場の拡大に伴い、低コストで長時間印字できる「バルクインクシステム」へのご要望を頂きました。

この市場の声に基づき、バルクインクシステムIQ7467およびIQ7468を開発いたしました。

当社は、今後もHP-SPS事業部との関係を継続・拡大するとともに、長年培った技術を生かし、より多くのユーザーへオンデマンド印刷のメリットをお届けしてまいります。

バルクインクシステム IQ7467、IQ7468の特長

- 樹脂コート紙・光沢紙への印刷が可能
- 低コストでの長時間連続印刷が可能
- 高い安全性と、米国HP社による信頼性を確保



IQ7467
(プリントヘッドキット)



IQ7468
(350ml インクタンク)

ゼネラルサプライ株式会社

新製品 POP / ラベル作成用
自己粘着フィルム「FIT-IT!FILM」

ゼネラルサプライ株式会社はPOPやラベルの制作が手軽にできる「FIT-IT!FILM」を開発。平成17年12月19日より発売を開始いたしました。

開発の背景

POPやラベルが手軽に作成できることから、伸長を続けるPOP作成フィルム市場。しかし、従来はインクジェットプリンタ対応製品に限られており、レーザープリンタ対応製品へのニーズが拡大しておりました。このニーズの高まりを受け、開発された「FIT-IT!FILM」はレーザープリンタ対応製品もラインナップ。より幅広い層の需要を喚起し、新市場を創出します。

今後、当社では、予想されるニーズの多様化・高度化に備え、流通専用サイズの販売など、新製品の投入を推進してまいります。

「FIT-IT!FILM」の特長

- くり返し使用、カッティングが可能
- ノリ剤なしで貼付が可能
- インクジェットプリンタ対応製品はもちろん、
- レーザープリンタ対応製品もラインナップ



連結財務諸表

連結貸借対照表

平成17年 10月 31日現在

(単位:千円、未満切捨)

科 目	金 額
資産の部	
流動資産	24,510,312
現金及び預金	9,315,148
受取手形及び売掛金	8,272,677
たな卸資産	3,567,918
たな卸不動産	1,733,560
繰延税金資産	428,976
その他	1,380,045
貸倒引当金	188,013
固定資産	23,575,672
有形固定資産	15,200,119
建物及び構築物	9,634,398
機械装置及び運搬具	9,249,394
土地	5,186,650
建設仮勘定	167,396
その他	1,328,475
減価償却累計額	10,366,195
無形固定資産	99,600
投資その他の資産	8,275,952
投資有価証券	7,409,856
長期貸付金	2,223,510
繰延税金資産	73,450
その他	764,392
貸倒引当金	2,195,257
資産合計	48,085,985

科 目	金 額
負債の部	
流動負債	11,220,201
支払手形及び買掛金	5,197,638
短期借入金	550,000
1年以内償還予定の社債	400,000
1年以内返済予定の長期借入金	3,361,114
未払金	68,637
未払費用	502,978
未払法人税等	391,276
繰延税金負債	4,518
賞与引当金	184,462
その他	559,575
固定負債	18,361,491
社債	4,150,000
長期借入金	11,941,607
繰延税金負債	1,676,869
退職給付引当金	173,449
連結調整勘定	31,194
その他	388,371
負債合計	29,581,693
少数株主持分	
少数株主持分	780,446
資本の部	
資本金	5,028,307
資本剰余金	4,760,701
利益剰余金	8,058,903
その他有価証券評価差額金	493,063
為替換算調整勘定	56,206
自己株式	560,923
資本合計	17,723,845
負債、少数株主持分及び資本合計	48,085,985

連結損益計算書

自 平成16年 11月 1日
至 平成17年 10月 31日

(単位:千円、未満切捨)

		科 目	金 額	
経常損益の部	営業損益の部	営業収益		32,116,364
		売上高	32,116,364	
		営業費用		31,519,197
		売上原価	25,529,659	
		販売費及び一般管理費	5,989,538	
		営業利益		597,166
	営業外損益の部	営業外収益		498,997
		受取利息・配当金	142,121	
		為替差益	80,013	
		持分法による投資利益	5,124	
連結調整勘定償却額		92,953		
雑収入		178,784		
営業外費用			488,883	
	支払利息	191,621		
	たな卸資産廃棄損	101,736		
	雑損	195,525		
	経常利益		607,280	
特別損益の部	特別利益	特別利益		510,506
		固定資産売却益	291,291	
		投資有価証券売却益	83,901	
		貸倒引当金戻入額	90,749	
		その他	44,563	
	特別損失	特別損失		613,206
		固定資産廃棄損	42,138	
		固定資産売却損	569	
		投資有価証券売却損	1,452	
		役員退職慰労金	185,777	
	たな卸資産評価損	171,472		
	子会社整理損	142,474		
	その他	69,321		
	税引前当期純利益		504,581	
	法人税、住民税及び事業税		406,182	
	法人税等調整額		208,079	
	少数株主利益又は少数株主損失()		131,598	
	当期純利益		438,077	

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

自 平成16年 11月 1日
至 平成17年 10月 31日

(単位:千円、未満切捨)

営業活動によるキャッシュ・フロー	1,210,479
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,438,566
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,396,098
現金及び現金同等物の期末残高	9,315,148

個別財務諸表

貸借対照表

平成17年 10月 31日現在

(単位:千円、未満切捨)

科目	金額
資産の部	
流動資産	6,156,130
現金預金	4,543,020
売掛金	50,737
販売用不動産	309,661
貯蔵品	417
短期貸付金	1,100,000
繰延税金資産	54,560
その他の流動資産	108,533
貸倒引当金	10,800
固定資産	33,428,387
有形固定資産	12,828,947
建物	5,909,506
構築物	144,248
機械装置	1,751,118
車両運搬具	2,838
工具器具備品	191,808
土地	4,821,898
建設仮勘定	7,529
無形固定資産	77,201
特許権・意匠権	34,570
電話加入権	9,922
施設利用権	810
ソフトウェア	31,897
投資その他の資産	20,522,239
投資有価証券	6,372,044
子会社株式	11,508,255
関係会社長期貸付金	2,190,000
株主に対する長期貸付金	2,119,410
長期前払費用	24,561
長期性預金	300,000
その他の投資	208,503
貸倒引当金	2,200,535
資産合計	39,584,518

科目	金額
負債の部	
流動負債	5,557,224
支払手形	4,145
短期借入金	1,600,000
1年以内償還予定の社債	400,000
1年以内返済予定の長期借入金	3,094,714
未払金	4,810
未払法人税等	135,800
未払費用	173,914
前受金	97,082
賞与引当金	16,458
その他の流動負債	30,297
固定負債	17,698,283
社債	4,150,000
長期借入金	11,668,719
繰延税金負債	1,669,333
長期預り金	210,231
負債合計	23,255,508
資本の部	
資本金	5,028,307
資本剰余金	4,760,701
資本準備金	4,569,721
自己株式処分差益	190,980
利益剰余金	6,658,475
利益準備金	306,431
任意積立金	3,364,773
役員退職慰勞積立金	190,000
固定資産圧縮積立金	2,344,773
別途積立金	830,000
当期末処分利益	2,987,270
株式等評価差額金	442,449
その他有価証券評価差額金	442,449
自己株式	560,923
資本合計	16,329,010
負債及び資本合計	39,584,518

損益計算書

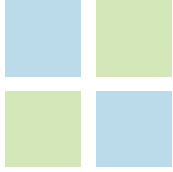
自 平成16年 11月 1日
至 平成17年 10月 31日
(単位:千円、未満切捨)

科 目		金 額	
経常損益の部	営業損益の部	営業収益	9,042,978
		売上高	9,042,978
		営業費用	8,558,654
		売上原価	6,707,101
		販売費及び一般管理費	1,851,552
		営業利益	484,323
	営業外損益の部	営業外収益	266,365
		受取利息・配当金	145,499
		雑収入	120,866
		営業外費用	279,199
	支払利息	169,904	
	為替差損	3,359	
	たな卸資産廃棄損	40,783	
	雑損	65,152	
	経常利益	471,489	
特別損益の部	特別利益	特別利益	87,186
		固定資産売却益	5,032
		貸倒引当金戻入額	82,153
	特別損失	特別損失	366,031
		固定資産廃棄損	3,802
		役員退職慰労金	175,777
		投資有価証券売却損	1,452
	子会社の新製品立上げに係る業務分担金	185,000	
税引前当期純利益			192,644
法人税、住民税及び事業税			123,059
法人税等調整額			7,350
当期純利益			76,934
前期繰越利益			2,910,336
当期末処分利益			2,987,270

[注記]

- (1)有形固定資産の減価償却累計額
(2)保証債務

9,895,292千円
3,232,800千円



利益処分

(単位:千円、未満切捨)

当期末処分利益	2,987,270
固定資産圧縮積立金取崩高	117,627

合計 3,104,898

これを次のとおり処分いたします。

利益配当金(1株につき10円)	157,265
固定資産圧縮積立金	285,972
次期繰越利益	2,661,660

株式の状況

平成17年10月31日現在

(1) 株式数	会社が発行する株式の総数	48,000,000株
	発行済株式の総数	17,218,543株
(2) 株主数		1,522名

(3) 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
タニヤマエンジニアリング株式会社	2,460	14.2
北田猛	2,010	11.6
日本生命保険相互会社	758	4.4
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託	755	4.3
ゼネラル恒友会	606	3.5
大阪証券金融株式会社	403	2.3
シティバンクロンドンエスエイステイティングシェルペンションファンド	307	1.7

(注) 当社は自己株式1,492,001株を保有しておりますが、表記しておりません。

会社概要

平成17年10月31日現在

設立	1940年8月7日
資本金	50億28百万円
従業員数	28名
上場証券取引所	大証2部(証券コード 3890)
事業内容	子会社の事業活動の支配・管理、不動産事業
事業所	大阪本社(本店) 東京本社

役員

平成18年1月27日現在

(代表取締役) 取締役社長	櫻井紘哉
(代表取締役) 専務取締役	北田 猛
取締役	村瀬晶久
取締役	井川敏夫
取締役	北田恵一
監査役(常勤)	上田 廣
監査役	松川雄次
監査役	久世和正

連結子会社・関連会社

平成17年10月31日現在

連結子会社

- ゼネラルテクノロジー株式会社
 - テキサス・イメージング・サプライINC.(米国)
 - ゼネラル・リボン・デ・メヒコS.A.DE C.V.(メキシコ)
 - ゼネラル・イメージング・テクノロジー(U.K.)LTD.(英国)
 - ゼネラル OA サプライズCO.,LTD.(香港)
 - アイ・エス・インダストリーズSDN.BHD.(マレーシア)
 - 上海尖能国際貿易有限公司(中国)
 - 青島尖能辦公用品有限公司(中国)
- ゼネラルサプライ株式会社
 - エコロテック株式会社
- ゼネラル興産株式会社
 - ゼネラルSRL(イタリア)
- 大阪螺子販売株式会社
- サンノート株式会社
- 株式会社マイツ・コーポレーション
- プレステージ・アセット・マネジメント証券株式会社

関連会社

- E&G香港LTD(香港) E&Gエレクトロニック(シンセン)LTD.(中国)
- 第一ゼネラル株式会社(韓国) オートマシン工業株式会社(日本)